

小規模多機能型居宅介護ゆったり「サービス評価」 総括表 2020年11月

法人名	社会福祉法人藤雪会	代表者	理事長又木京子	法人・事業所の 特徴	利用者ひとり一人の人格を尊重し、利用者がおのこの役割を持って、安全で安心できる環境のもとで日常生活を送ることができるようなサービスを提供する。
事業所名	小規模多機能型居宅介護ゆったり	管理者	白石理恵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	人	人	2人	1人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	スタッフ会議で自己評価に取り組む。	コロナ感染症予防で会議を開催できなかったが、朝、夕のミーティングを大切に情報共有し自己評価に取り組んだ。	コロナ感染予防でスタッフ会議は開きにくかったが、スタッフは情報を共有し、臨機応変に取り組んでいた。安全対策と利用者の希望とのバランスが難しいと思う。気配りや共有はほとんどできていた。取り組み不足もあった。	ゆったり職員として、知識とケアの向上を目指し、自己評価に取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	ホームページやパンフレット、お知らせ等を用いてしつらえや環境を伝える。定期的に安全確認の施設内巡回を行う。	ホームページや「あさひたより」で、ゆったりについてお知らせした。安全推進委員が定期的に巡回している。	事業所の現状は理解されつつあり、職員はあいさつや声掛けでき、地域の皆さんも好意的にとらえている。居心地がよい。1階の一ぷく亭の利用もあり良かった。	ゆったり通信をあさひたよりに盛り込む。ホームページやPRの広報誌を作成し、地域に配布する。巡回は引き続き行う。
C. 事業所と地域のかかわり	自治会行事に参加する。包括主催研修に出席する。障がい、子どもなど多方面とのかかわりを視野に入れる。ゆたりの行事にお誘いする。	行事は開催できなかった。包括主催の研修に管理者が出席した。例年来所する保育園や近隣教会も来所を自粛された。	ほとんどの行事が中止となり、関わり方が難しかった。できるだけ情報を共有していく必要がある。できる範囲で、おおむね出来ていたと思う。	「密」にならない場所での行事に少人数で参加する。散歩の際には挨拶や声掛けで近隣の方とのコミュニケーションを大切にする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	引き続き、自治会や近隣保育園に出向く。利用者担当の民生児童委員さんと連携する。	「C」と同じく地域に出向く回数には少なかった。近隣教会のベンチへの散歩が恒例となっていたが、状況を見ながら行えた。	いかにして新型コロナウイルスを予防するかというテーマでの取り組みが見られた。少人数での散歩など少しでもできてよかった。	近隣保育園他と相談し、無理のないかかわりを考えていく。一人暮らしの方の担当民生児童委員さんへの声掛けを行いご意見をいただく。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>推進会議で研修報告を行い、ご意見をいただく。災害対策は引き続き推進会議で話し合い、学びの場とする。</p>	<p>研修も中止となったが、1月~2月に認知症実践者研修を2名が受講する予定。推進会議で防災について自治会長から話を聞くことができ良かった。</p>	<p>会議開催も難しいところがあるが、続けて地域にかかわってもらいたい。開催時はよく意見を聞くことができた。</p>	<p>引き続き、防災の知識を身に付ける。ミニ職員研修も視野に入れる。必要な研修は指名し受講してもらう。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>避難訓練の実施。防災の知識を身に付ける。大災害時の地域の方の受け入れについて。</p>	<p>訓練は実施した。地域の方の災害時の受け入れは、近隣の公民館、小学校が主となる。特に、水害時は、まず泊っている利用者の方の安全確保を優先することが重要。</p>	<p>事業所として訓練に取り組んでいる。災害対策は非常に難しく地域でも大きな課題。地域住民の受け入れは難しいと思われる。きめ細かい防災計画が必要。研修も受けていて対応は心配ない部分もある。</p>	<p>風水害が予測されるときの早めの対応。防災（避難）マニュアルの再点検を行う。</p>